

アカタビネズミ *Myopus middendorffi*

VINOGRADOV 樺太に産す

吉 倉 眞 MAKOTO YOSIKURA

樺太師範學校

ハタネズミ亞科 (Microtinae) はタビネズミ群 (Lemmi) とハタネズミ群 (Microti) との2群に分たれる。前者は北界の寒帯地方に分布し、我國及び滿洲の何れからも未だ知られてゐない。所が後者は日本及び滿洲の各地に普通で、徳田御稔博士 (1941) によると 10 種、9 亞種、1 變種を數へ、樺太に於てもアカヤチネズミ *Clethrionomys rutilus rutilus* (PALLAS) とタイリクヤチネズミ *Clethrionomys rufocanus rufocanus* (SUNDEVALL) の 2 亞種が知られてゐる。著者は年來樺太産鼠類の生態を明にせん爲、全島各地から多數の標品を蒐集中、僅に 1 頭ではあるが既知の野鼠とは類を異にするタビネズミ群の一種 *Myopus middendorffi* VINOGRADOV を得たので茲に報告しようと思ふ。

抑々、タビネズミ群の鼠類は北界に *Dicrostonyx*, *Synaptomys*, *Myopus*, *Lemmus* の 4 屬が知られ、其内 *Synaptomys* 屬は北米に限られるが、何れも北極海をかこむ寒帯の諸地域に分布し、東亞北方に於ては新シベリア諸島に *Dicrostonyx torquatus torquatus* PALLAS, コリマ河の河口附近に *Dicrostonyx chionopaes* ALLEN, 黒龍江の一支流ゼーヤ河流域に *Lemmus amurensis* VINOGRADOV, 新シベリア諸島に *Lemmus obensis novosibiricus* VINOGRADOV, オホーツク海西岸の Gichiga に *Lemmus obensis chrysogaster* ALLEN, コリマ河の河口附近に *Lemmus paulus* G. M. ALLEN, オホーツク海沿岸及び北アムールから西へバイカル湖東岸に及ぶ地域に *Myopus middendorffi* VINOGRADOV, コリマ河の河口附近に *Myopus thayeri* G. E. ALLEN 等の産することが現に知られてゐる。

樺太産哺乳動物の地理的分布を考察する時、樺太に産する哺乳動物のすべてが大陸に棲息する種か、又は其れの僅に分化せる亞種であり、最近まで樺太特産種とせられしヲナガネズミ *Sicista caudata* THOMAS の如きも、實は既にシホタ、アリン山脈やウスリー地方に採集されてゐる事實に鑑み、タビネズミ群に屬する鼠が我樺太に於ても發見されたことは敢て異とするに足りないであらう。

— *Myopus middendorffi* VINOGRADOV

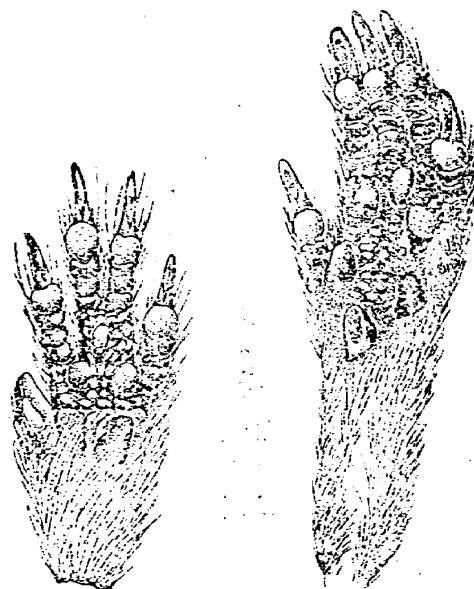
1922 *Myopus middendorffi* VINOGRADOV, *Ann. Mus. Zool. Acad. Sc. Russ.*, 23, pp. 374 (name only), 512.

— 標品: 昭和 10 年 7 月 25 日南樺太東海岸知取の遊仙峽にて著者の採集せる成雄 1 頭 (標品番號 13)。酒精浸。

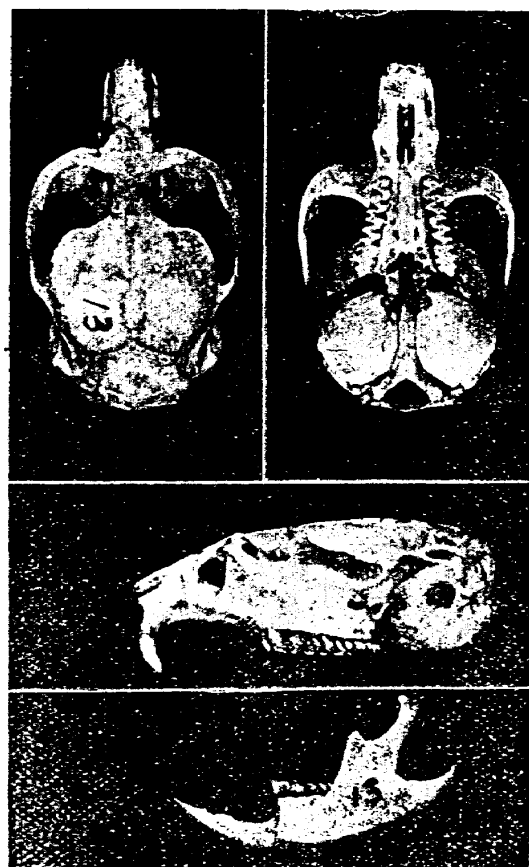
記載: 體は一見タイリクヤチネズミに似たるも一層強く逞しき感を與ふ。毛皮は柔く毛は長くして密生す。色彩は頗る暗色に富む。背面は前頭より背部、尾の基部に至るまで赤褐色を

呈し、一帯に暗褐色の長き粗毛を有す。吻部はまるく、暗褐色、銀毛を混ぶ。口唇は淡黄色にして、白色の短毛を生ず。耳は暗褐色、毛よりも突出してよく發達し、圓くして内面には長毛を生ず。迎珠は明瞭なり。頬、肩、側腹、腰、腿等はチョコレート色、腹面は石板灰色を呈す。手足(第1圖)は暗褐色。手の拇指は頗る短けれど大なる爪を具有す。第三及び第四指は最も長くして略同長、第二及び第五指之に次ぎ、何れもよく發達せる鉤爪を具ふ。掌褥5。足の各趾及びその爪は尋常に發達す。蹠褥6。尾は短く後足と同長、一體に褐色を呈し、毛は少くして鱗環は明瞭なり。上面に濃褐毛、下面に銀白毛を生ず。穂の長さ約5 mm。

頭蓋(第2圖)は *Lemmus* に酷似し、各



第1圖 樺太産アカタビネズミ
Myopus mildendorffi
左; 手 右; 足

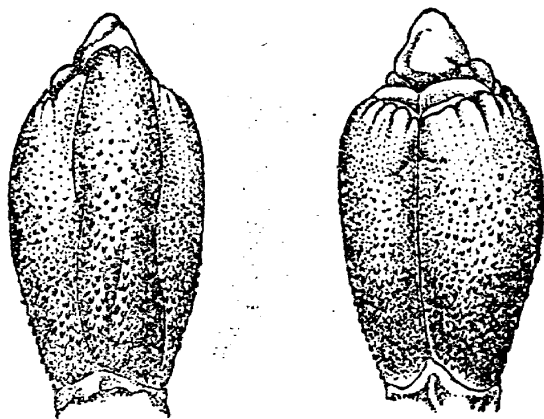


第2圖 頭骨 (擴大)

部頑強に發達して角張る。腦函は大きく平く、上眼窩突起は翼狀に張出し、眼窩中隔の縦紋は顯著なり。口吻部は短く太く、顴骨弓の張りは著し。鼓胞はまるく大きく、鼓胞間の間隔は比較的狭し。門齒孔は大、口蓋骨は後方に幅廣となり、後端中央に短き1棘を有す。齒は頗る強壯に發達す。上顎の門齒は僅に彎曲し、前面は鼻骨端と略同一面にあり。前内側のみ黄染す。頬齒は大きく、兩齒列間の間隔は後方に擴り、全く着色を見ず。齒紋は概ね *Lemmus* に似たり。M₁ は5個に區分せられ、各側に3個の凸出角を有す。M₂ は4個に區分せられ、外側に3、内側に2個の凸出角を有す。M₃ は4個に區分せられ、外側に4、内側に3個の凸出角を有し、各區は互に密接せり。下顎は頭蓋に相應じて強壯に發達す。門齒はタイリクヤチネズミに比して遙に短く、前端鋭尖、後方は顎

舌部を通りて第三臼齒窩前に終る。M₁ は5個に區分せられ、外側に3、内側に4個の凸出角を有し、前端は鋭く突出す。M₂ は5個に區分せられ、各側に3個の凸出角を有す。M₃ は4個に區分せられ、外側に2、内側に3個の凸出角を有す。上顎頬齒に於ける内側の凸出角

及び下顎頰齒に於ける外側の凸出角の若干には四角状となれるものあり。



第3圖 陰莖 左;背面 右;腹面

陰莖(第3圖)はタイリクヤチネズミに比して繊細なり。龜頭は細き圓筒状、頂部少しく膨大す。横溝を認めず。背面に縦走する隆起あり。龜頭全面に逆行せる微棘を密布す。正乳頭突起は顯著なれど;側乳頭突起は小さし。背乳頭突起は單一、皺襞に隠されて存し、外部よりは認め得ず。舌乳頭突起は薄質にして、中央の細小なる1瓣と兩側にひらく2瓣とよりなる。

測定(單位 mm.): 頭胴 88, 尾 18, 後足(爪を除く) 18, 耳 12。

頭蓋最大長 27.3, 基底長 25.2, 口蓋部長 14.2, 間隙 8.0, 額骨部幅 16.7, 鼓胞長 7.5, 上臼齒列長 7.8, M₁幅 1.3, 門齒孔 4.8, 鼻骨長 7.6, 鼻骨幅 3.3, 眼窩中隔幅 3.3, 腦函幅 12.7, 頭蓋高 8.4, 下顎骨 16.8, 下臼齒列長 8.0。

著者の標品は上述の通り HINTON, M. が彼の Monograph of the Voles and Lemmings (1926) pp. 183—184, p. 422, p. 455 に掲げた *Myopus middendorffi* の記載とよく一致してゐる。たゞ大陸産のものに比して尾や後足が幾分長い。即ち VINOGRADOV が記録した Okhotsk の海岸産 5♂♂, 2♀♀ 中尾長の最大なるものは♂頭胴 96, 尾 16.8, 後足 15.8 であるし, 後足長の最大なるものは♂頭胴 86, 尾 13.2, 後足 16.3 である。併し検品はたゞ1頭であり, これを以て樺太産のアカタピネズミを云々することは差控へねばならぬ。

擱筆するに當り; 懇篤なる御指導を賜りたる恩師阿部余四男教授に對し, 深厚なる感謝の意を表する。

文 獻

- ALLEN, G. M. 1940. The Mammals of China and Mongolia, Pt. II, New York. HINTON, M. A. C. 1926. Monograph of the Voles and Lemmings. (Mscrotinae). Vol. I, London. TOKUDA, M. 1941. A Revised Monograph of the Japanese and Manchou-Korean Muridae, Trans. Biogeogr. Soc. Jap., Vol. iv, No. 1.